

明日 6.27 肉争に引き続き国会へ！

21日パリゲートを相受して以来、すでに半月を経ているが、大学治
 定五法紛争の闘いは、全国の大学にその火柱が更なる勢いで上かつて
 いる。五月二十三日、六月一日として、二十七日の闘いは、左列的
 大家の決起を呼び、全国大学では新なるストライキ、パリゲート闘争
 への突入と、全国津々浦々にその闘いを押しひろげている。
 東大、日大闘争によってさらに火のついたオニヤンパオのその熱は
 は、四三八神學堂闘争の爆音を踏まえ、五、六月間争の闘争の熱を
 をかちとりつつ、大学治定五法紛争の闘いを更にその矛先とし、公
 六九年日本路線闘争の「中絶」となるべき一つの登壇としての言葉を
 張る拡大しているのである。

大学五法——帝國主義者による大学を、素の肉弾直撃を配の目標が
 のその超反動性は、いかなる人びとも諒に留めて置くべきではない情況をつ
 くりだし、全国大学闘争の五法として、全国人民の闘争で獲得してい
 現在、全国各地の大学が、七の年闘争の熱を踏まえ、この熱意から
 施々と大進軍をくり出し、我々の配給の熱意の「七の年」の「エ
 ール」を一つ／＼、打ち破ることに決する。教師内閣の「身命」を賭
 したと攻撃として大学治定五法がある。とりわけ、彼が「七の年」
 月低減給米を目前にし、闘争の熱意を燃やさねばならぬ。この熱意に
 て、大学問題しを無視して、状況にどういつけいという危機感に裏づけ
 られるものである。そして、大学問題しを七の年闘争へ更に拡大さ
 せることによつて、一帯神學堂問題の解決を不可能に近づけること
 を配給として、この闘争の熱意を燃やしているからである。

今国会における政府自民党の配給自らの敵対主義への幻想の徹底し
 た破壊は、又配給の熱意の七の年への「天啓」と同時に、これまでの
 平和的階級配給の不可能と承知していかしものである。

この配給、今の手にする所からの「消費者」主義の破壊に代しま
 なす術もたない配給配給配給配給配給配給配給配給配給配給配給配給
 ます。前四主義者の徹底的配給配給配給配給配給配給配給配給配給配給
 とし、その情勢を押し進めてあり、まさにこの大学治定五法紛争闘争、
 更に11月低減給米阻止闘争へとその決定闘争の不可避にしている。
 とりわけ、全国大学闘争——七の年闘争の第一への果敢の攻撃に對
 しては、一帯の大学闘争の激化、全国大学のパリゲート闘争をむつて、
 粉碎しつゝ、こればならぬ。

全国の学生諸君、とりわけ商學部の学生諸君、全国大学闘争と
 対応し、そして、明日の五法紛争の闘いに決起し、連戦に
 国会へ「大学治定五法紛争」の怒濤のデモにパリゲートの甲から決起
 し、よりでありませんか。

七月九日 11時 和泉中庭結束

12時 本校へ向けて出発

1時半 国会デモ

商學部闘争委員会